

# 普及現地情報

発信年月日:令和6年(2024年)11月8日  
所属名:甲賀農産普及課  
番号:C24012  
発信者名:池原、下川



## 「びわほなみ」の栽培研修会を開催

10月8日、管内麦生産者を対象に「びわほなみ」の栽培研修会を開催し、当日は生産者や関係機関から計53名参加されました。当課からはびわほなみの収量・品質の確保に向けて、排水対策の徹底や莖立期の穂肥、雑草対策、赤かび病の防除などを説明しました。

甲賀地域では、令和6年産の麦から従来の作付品種である「農林61号」「ファイバースノウ」に代わり、「びわほなみ」に品種転換されました。令和6年産「びわほなみ」の管内平均収量は、前年産「農林61号」に比べ11%(+23 kg/10a)程度の増収となりました。特に、莖立期の穂肥実施や排水対策を積極的に取り組んだ生産者では、約500 kg/10aと大幅な増収がみられましたが、排水不良による出芽不良などにより、収量が伸び悩む生産者も見受けられました。

そこで当課からは、「びわほなみ」のさらなる品質・収量の向上に向けて、①排水対策の徹底による苗立の確保②2月下旬～3月中旬の雑草防除の実施③適期播種の実践による病害や凍霜害の抑制④莖立期の穂肥施用による品質・収量向上⑤赤かび病の適期防除の実施について説明しました。特に、減収の大きな原因となっている排水対策と雑草防除について重点的に説明し、基本技術を徹底して実践されるよう呼びかけました。

生産者からは、赤かび病の防除について防除回数や費用対効果など、質問が多く出され、活発な研修会となりました。

当課では、今後も品質・収量向上に向けてびわほなみの栽培を支援していきます。



「びわほなみ」の栽培研修会の様子